

日本を核戦争の舞台にするな SSDIの成功めざし、代表系譜・四項目国民署名の集中を!

日本にも「核戦争はありうる」
恐るべきレーガンの本音

現在世界中で、核戦争への道をますます突き進もうとする動きと、それに対して續々反対の声をあげ平和を求めて立ちあがる人々の運動が力つてなりほどに鋭く対立しています。アメリカは自國を「聖域」にしたままアフリカやヨーロッパで「限定核戦争」を行うといふ許すべからざる計画を持っていますが、これに對してヨーロッパではドイツの50万人デモ、オランダの40万人デモをはじめ、次々と人々が抗議に立ちあがっています。欧洲でのこのよう大きな運動の背景には、日本の反核・平和運動の強烈影響があることを忘れてはなりません。しかも欧洲のみならず、今、日本こそが核戦争の戦場として狙われている。こりう事実は「日本にも核を配備する」というロストウ発言でよりよ鮮明になっています。

SSDI(第2回国連軍縮特別総会)に 教養から代表を!!

こうした中で来春行われる国連の第2回国連軍縮特別総会には、大きな期待がかかっています。世界の人民の世論と運動こそ核争止の最大の保障です。私たちが今もとも緊急に行わなければならぬことは、自國の政府を世論で動かし、

SSDIの成果を発展させ、その行動計画を具体化されることです。「SSDIに核兵器完全禁止と軍縮を要請する国民署名」がその推進力となります。包括的軍縮計画の厳しい実施や核兵器使用禁止協定の採択を迫ることの署名をSSDIの際の2千万を越える規模で集める必要があります。またこの署名を直接SSDIに届けるために教養から代表を送ること、そのための多額のカンパを集めることを皆さんに訴えます。

一平和の運動の先頭には常に青年学生の姿があります。平和に向けて共にがんばりましょう。

教養部 自治 常任